

中長期事業計画「Chuo Vision 2035」の構成

建学の精神

「實地應用ノ素ヲ養フ」
～ジッチオウヨウノ ソヲ ヤシナウ～

Mission

建学の精神に基づく本学の使命を「Mission」とする

文化の創造・発展と社会・人類の福祉に貢献する教育研究を推進し、
「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材を育成する

Vision 2035

創立150周年である2035年度の本学のあるべき姿を「Vision 2035」とする

Vision 1

創立150周年に向けた
中大ブランドの継承と
新たな価値創造

Vision 2

予測困難な時代に求められ
る力を育む「実学」教育を
通じた人材育成

Vision 3

伝統が育んだ「知」を
結集した研究の推進と
社会との共創

Vision 4

誰もが個性と能力を
発揮できる場の創出

Vision 5

学内リソースの結集に
よるシナジーの最大化

中長期戦略

「Vision 2035」を達成するため、各Visionごとに定めた戦略を「中長期戦略」とする

中長期計画

「中長期戦略」を実現するため、各戦略ごとに定めた具体的な取組みを「中長期計画」とする

戦略指標

「中長期戦略」の進捗を確認するための指標・目標（定量指標・定性指標）を「戦略指標」とする

ロードマップ

「中長期計画」を実現するための工程を「ロードマップ」とする

Vision 1

創立150周年に向けた 中大ブランドの継承と新たな価値創造



創立150周年を迎える2035年に向けて、更に高めた本学の価値・伝統を次世代に継承していく。
具体的には、建学の精神に基づく本学の存在意義と歴史的価値をステークホルダーに幅広く共有し、本学が誇る「伝統とネットワーク」をより強固なものとするとともに、総合学園としての更なる発展を目指す。
また、本学の未来を象徴するキャンパスグランドデザインを策定し、創立150周年以降の発展を眺望できる新たなブランドを形成する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 学生・附属校生徒が誇りを持って本学で学び、帰属意識が育まれている
- ◆ 教職員一人ひとりが広報マインドを持ち、本学のブランド形成に貢献している
- ◆ 本学とステークホルダーとが互いに高めあい、支えあう存在となっている
- ◆ 本学アスリートの活躍が本学のブランド力向上に寄与している
- ◆ 次世代の学生を惹きつけるキャンパス構想が策定・公表されている
- ◆ 創立150周年記念事業を通じてステークホルダーとの関係が強化されている
- ◆ 創立150周年以降の発展を眺望できる本学の新たな価値・イメージを発信している

中長期戦略

戦略 1-1 本学の建学の精神や歴史への理解を通じた帰属意識の涵養

戦略 1-2 ステークホルダーとの良好かつ強固な信頼関係の構築

戦略 1-3 スポーツ振興による一体感・応援文化の醸成

戦略 1-4 次世代の教育研究のあり方を踏まえたキャンパスグランドデザインの策定

戦略 1-5 創立150周年以降の発展を眺望できる新たなブランディング

戦略 1-1

本学の建学の精神や歴史への理解を通じた帰属意識の涵養

本学の歴史的価値は、建学の精神に基づく教育研究活動のみならず、本学で学んだ人々の社会での貢献により形づくられてきたものである。

創立150周年に向けて、この重みをあらためて受け止め、教職員、学生・附属校生徒一人ひとりが、建学の精神や本学の歴史等への理解を深め、本学の一員であることに誇りを持つような取組みを展開することが重要である。このような帰属意識を育むことで、教職員とともに、学生・附属校生徒が卒業後も本学を支える礎とする。また、父母等にも、本学の理念や活動への理解と共感を深め、誇りを感じるような施策を実施していくことが大切である。

そのためには、自校教育の実施や、教職員のインターナルコミュニケーションの更なる強化、法と正義の資料館・大学史資料館の活用等により、全ての構成員が本学の歴史や教育研究活動の成果を正しく理解し、新たな価値を創造しながら本学の歴史的価値を次世代へと継承していくことが不可欠である。

中長期計画

学生・附属校生徒の帰属意識を涵養し、誇りを持って本学で学ぶ施策の実施

父母等への本学に対する理解と共感を促す施策の実施

教職員のインターナルコミュニケーション施策の実施

法と正義の資料館・大学史資料館を活用した施策の展開

戦略 1-2

ステークホルダーとの良好かつ強固な信頼関係の構築

卒業生、地域、国際社会等の様々なステークホルダーへの恒常的な働きかけを可能とするネットワークを強化し、ステークホルダーと教職員がともに本学を支える良好で強固な信頼関係を構築する。

とりわけ、卒業生に対しては各種のイベント開催や情報提供等を一層深化させ、寄付などの本学への支援を喚起する。また、キャンパス所在地域をはじめとする地域社会との関係においては、本学の教育研究活動の成果である知的資産や施設の活用等を通じて新たな価値を生み出し、その価値を本学に還元することで、更に社会に開かれた活動を行う源泉とする。

中長期計画

中長期事業計画「Chuo Vision 2035」の戦略的な広報展開

企業、地方公共団体、国際機関等との連携強化に向けた情報発信・交流イベント等の施策の実施

卒業生との信頼関係の構築に向けた校友活動の充実

創立150周年記念事業募金（仮称）を含む寄付金政策の実施

戦略 1-3

スポーツ振興による 一体感・応援文化の醸成

大学スポーツは、スポーツの裾野を広げるとともに、人間の挑戦の可能性を広げるものであり、ウェルビーイングを重視する社会の形成において重要な要素である。また、学生アスリートが真摯に競技に打ち込む姿やその活躍を目にした際の感動は、愛校心の醸成にもつながり、更に大学スポーツ全体の発展に寄与するものといえる。

本学では、中央大学スポーツ憲章に基づき、スポーツ振興を推進し、教職員、学生・附属校生徒、卒業生、父母等および地域住民に一体感をもたらす応援文化を醸成するとともに地域交流の取組みを通じて社会へ貢献していく。あわせて、本学で活躍するアスリートの学業と競技の両立を図り、安心・安全な活動を進められるよう環境整備を進める。

中長期計画

大学スポーツを通じた応援文化の醸成と地域交流を促進する施策の実施

学生アスリートの学修と競技活動の両立を実現する支援体制の確立

駅伝その他大学スポーツの振興による本学のブランディング強化

スポーツ振興、活動支援のための財源確保

戦略 1-4

次世代の教育研究のあり方を踏まえた キャンパスグランドデザインの策定

キャンパスが大学の役割にふさわしく整備されていることは大学ブランドの重要な要素である。次世代の教育研究のあり方や学生像を想定するとともに、国の政策動向を踏まえた新たな都心展開の可能性や将来の適正定員規模について十分な検討を行い、本学の新たな象徴となるような全学的なキャンパスグランドデザインを策定する。

中長期計画

スポーツ情報学部（仮称）および情報農学部（仮称）に係る施設・設備の整備およびその状況把握・整理

2035年度以降の学生規模・教育組織・教員組織等のあり方の検討

キャンパスの整備理念に関する検討およびキャンパスグランドデザインの策定

戦略 1-5

創立150周年以降の発展を眺望できる 新たなブランディング

本学が日本と世界から必要とされる大学であり続けるためには、先人が築いてきた価値・伝統を継承するのみでなく、果敢に教育・研究・社会貢献に挑み続け、新たな価値創造を行う姿を発信し、多くのステークホルダーからの支持を得ることが重要である。

創立150周年という歴史的な節目を迎えることを契機として、文化の創造・発展と社会・人類の福祉に貢献する教育研究を推進し、「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材を育成することを通じて、創立150周年以降の発展を眺望する新たなブランディングを行う。

中長期計画

創立150周年以降を眺望できる新たな戦略的ブランディング施策の実施

創立150周年記念事業の実施

Vision 2

予測困難な時代に求められる力を育む「実学」教育を通じた人材育成



「予測困難な時代」とも表現される新たな時代で活躍する人材を、本学のブランド価値である「実学」を通じて育成する。具体的には、優秀かつ多様な学生を日本内外から広く獲得し、社会のニーズに即した教育を提供することで、学生の主体的な学びと成長を促す。とりわけ、本学が複数キャンパスを擁するなかでも、学生が一体感を持ち、また、本学の伝統ある各学部の特徴や強みを大学全体の力として発揮できるよう、全学的・学部横断的な教育機能の強化を重視し、「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材を育成する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 本学のポリシーに共感する優秀かつ多様な学生を世界から獲得できている
- ◆ 各学部での学びの基礎となる全学的教育プログラムが確立している
- ◆ 社会のニーズに合わせて柔軟に対応できる教育実施体制が整っている
- ◆ 各学部等の特色や資源（教員、施設設備等）を全学的見地から有効活用（共有）できている
- ◆ 学生が主体的に学び、自身の成長を実感できている
- ◆ エビデンスに基づく組織的な教育改善が日常的に行われている
- ◆ 本学の教育力の高さが社会で広く認知されている
- ◆ 大学院修了者が高度専門職業人として幅広いキャリアで活躍している
- ◆ 附属学校と大学との教育連携を通じて、建学の精神を体現する附属校生徒が育成されている

中長期戦略

戦略 2-1 現行の収容定員規模を前提とした学生募集活動と入試制度改革

戦略 2-2 中大スタンダード教育の確立をはじめとした学部横断型教育の充実

戦略 2-3 地域社会への教育機会提供の活性化に通じる多分野融合教育の推進

戦略 2-4 社会のニーズに柔軟に対応した教育を実現するための実施体制の構築

戦略 2-5 DXを通じた教育改革と質保証

戦略 2-6 実現可能性を重視した多面的な国際化の展開

戦略 2-7 大学院教育を通じた「高度専門職業人」の育成

戦略 2-8 附属学校と大学との教育連携による「行動する知性」を備えた人材育成

戦略 2-1

現行の収容定員規模を前提とした学生募集活動と入試制度改革

2023年時点で110万人となっている18歳人口は、2035年には約96万人、2040年には約74万人にまで減少すると推計されており、今後10年間で学生募集は更に困難性を増すものと予測される。他方、依然として東京をはじめとする大都市圏の大規模校における定員充足率は100%を超えており、また、いわゆる23区規制も継続している状況にある。それらに鑑み、伝統ある総合大学としての価値を追求する本学においては、当面、現行の収容定員規模を前提として、「質・能力・多様性」重視の学生募集活動と入試制度改革を行う。

中長期計画

受験生にわかりやすく、優秀層の受入れにつながる入試手法の発案

優秀な外国人留学生受入れのための制度充実

「首都圏におけるプレゼンス向上」と「全国型の堅持」を両立させる学生募集活動の実施

戦略 2-2

中大スタンダード教育の確立をはじめとした学部横断型教育の充実

本学が複数キャンパスを擁する中でも、学生が中大生としての一体感を持てるよう、また各学部等における専門教育の一助となるよう、全学共通・学部横断的な基礎教育プログラムとしての「中大スタンダード教育」を確立する。いわゆるアカデミック・スキルの修得のみならず、自校教育等、本学の学生としてのアイデンティティ形成に資する内容も想定する。また、全学共通・学部横断的な教育の効率的かつ効果的な実施方法を追求し、現行の学部間共通科目（FLP、AI・データサイエンス教育等）の見直しを含め、全学的教育プログラムを再構築する。

中長期計画

全学的教育プログラムの見直し・再構築

中大スタンダード教育の開設

AI・データサイエンス科目の再体系化によるデジタル人材育成の強化

各学部教育課程における共通性の高い授業科目の全学横断的な開講形態への移行に向けた検討

複数キャンパスにおいて学部横断科目の履修を容易にする制度・仕組みの実現

戦略 2-3

地域社会への教育機会提供の活性化に通じる多分野融合教育の推進

地域との連携による当該地域の発展に資する貢献が大学に期待されていることに鑑み、本学が提供する教育機会に対する地域社会からのアクセスを確保するとともに、総合大学である多様なリソースを活かした教育活動を通じた地域連携・地域貢献を推進し、地域課題の解決に貢献する。

また、地域課題の解決に資するような多分野融合教育プログラムの開発・実践により、各学部の専門にとどまらない課題発見力と課題解決力を養う教育を推進する。

中長期計画

教育を通じた地域連携・地域貢献の推進

多分野融合的な教育プログラム（学位プログラム含む）の開発・実践

戦略 2-4

社会のニーズに柔軟に対応した教育を実現するための実施体制の構築

18歳人口の減少が進む中、今後の学校法人運営においては、これまで以上に社会のニーズを敏感に感じ取り、ニーズにマッチした教育課程を提供することではじめて、優秀な学生の獲得と人材育成が可能となる。現在の各学部における独自性に配慮しつつも、学部横断的な定員再配分や教育課程の再編が可能となるような教育実施体制（教教分離）の構築を進めていく。

中長期計画

学部・研究科・全学連携教育機構等の教育課程・プログラムに関する全学的なマネジメントを行う仕組みの導入

柔軟かつ効率的な教育課程・プログラム編成を可能とする教員組織体制の導入

教員の優れた教育活動を伸長するための方策の拡充

教育活動および教育の質保証における学生と教職員の協働体制の確立と推進

多様なエビデンスの常時収集ならびに点検・検討体制の構築によるIR機能の高度化

戦略 2-5

DXを通じた教育改革と質保証

学修ポートフォリオの活用等を通じて学修成果の可視化を推進し、エビデンスに基づく組織的な教育改革と学修者本位の学びを実現する。その際、高度ICTを最大限に活用することで、教育効果の最大化を図りつつ、新たなニーズにも応えうる教育プログラムの構築も目指す。また、可視化した学修成果を社会へ積極的に公表することで、本学の教育力に対する社会からの評価を高める。

中長期計画

教育・研究DXグランドデザインの策定およびDX推進に伴う業務体制、マネジメント体制の整備

高度ICTツールを活用した新たな教育手法の開発・支援の推進

統合情報システムの整備による教学IR機能の向上

戦略 2-6

実現可能性を重視した多面的な国際化の展開

海外留学生数の増加、外国人留学生の受入れ拡充・質的向上、「行動する知性（Knowledge into Action）」を体現できるグローバル人材の育成、海外協定校の実質化・海外拠点の活用、外国人教員等割合・外国語による授業割合の増加等、「本学の国際化の将来構想について－実現可能性を重視した多面的な国際化の展開－（Chuo Global-X）」で示された各施策を実施することにより、本学の教育の国際化を推進する。

中長期計画

海外留学者数を増加させるための施策パッケージの設計・運用

留学以外の手段によるグローバル人材育成と「内なる国際化」の進展

外国人留学生の受入れ拡充・質的向上

海外協定校の実質化・海外拠点の活用と高大連携の促進

教育研究の国際化に向けた外国人教員等の割合および外国語による授業数の適正化

戦略 2-7

大学院教育を通じた 「高度専門職業人」の育成

大学院において「次世代研究者挑戦的プログラム（SPRING）」と連動した改革を推進し、高度専門職業人の育成機能を強化するとともに、定員充足率の改善を図る。これらの改革を支えるため、本学が保有する研究教育リソースを柔軟に活用できる体制へと刷新し、研究指導体制を盤石なものとする。また、専門職大学院については、戦略経営研究科においてリカレント教育やリスキリングを目的とした社会人の受入れを一層強化する。更に、法科大学院では法学部との連携を深め、本学の伝統と実績を継承しながら、次代を切り拓く法曹養成に取り組む。

中長期計画

大学院体制の刷新

「高度専門職業人」育成のためのカリキュラム強化

「高度専門職業人」育成に向けたキャリア教育支援

法科大学院と法学部の教育連携強化と法曹養成連携機能の一層の充実

戦略 2-8

附属学校と大学との教育連携による 「行動する知性」を備えた人材育成

本学が設置するすべての教育研究機関が連携して総合的・計画的に教育研究活動を推進し、附属中学校・高等学校、大学、大学院を通じて一人ひとりの生徒・学生を「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材として育成し、社会に送りだしていく。

中長期計画

「中央大学と附属学校の教育連携プログラム」の充実と新規展開

Vision 3

伝統が育んだ「知」を結集した研究の推進と社会との共創



研究の成果を社会に還元すること、すなわち研究成果を社会実装し、資源の乏しい我が国の発展に資するイノベーション創出につなげることは、次世代を担う人材の育成とともに大学に課せられた社会貢献の大きな役割と認識する。
本学の研究者一人ひとりが日ごろの研究活動で培った「知」をこうした社会実装に振り向けることを積極的に後押しし、本学の「知」を社会の発展に役立てることを教育に並ぶ本学の使命として推進する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 研究成果の社会実装、イノベーション創出、大学発ベンチャーの創設等を通じて、本学の研究力の高さが社会に認知されている
- ◆ 本学の各研究組織が、全学的な研究推進方針の下で最適化され、有機的に連携している
- ◆ DXを通じて、研究活動の推進を支える機能と組織が最適化されている
- ◆ 学際的・分野融合的研究活動の推進を支える学術情報基盤が適切に整備されている
- ◆ 学納金によらない研究財源の確保ができています
- ◆ 研究の国際化やオープン化に伴う新たなリスクを含め、研究インテグリティが確保されている
- ◆ 博士後期課程の学生が、自立した研究者として活躍できている

中長期戦略

戦略 3-1 研究成果の社会実装による研究大学としてのプレゼンス強化

戦略 3-2 学際的・分野融合的研究活動を推進する体制の整備

戦略 3-3 研究財源の確保

戦略 3-4 研究活動の推進を支える学術情報基盤の整備

戦略 3-5 博士後期課程を起点とした若手研究者育成

戦略 3-1

研究成果の社会実装による 研究大学としてのプレゼンス強化

本学では研究成果を教育のみならず、社会へ還元することを目指してきた。少子高齢化問題、産業構造の変化、食料などの資源問題や国際情勢の不安定化といった多岐にわたる社会課題に対して解決が求められていることを踏まえ、改めて「研究成果を発信し社会実装していくこと」を本学の方針として確認し、そのための体制を整備する。

中長期計画

研究成果の発信充実

研究の国際化推進

社会実装、イノベーション創出を一体的・戦略的に推進する体制の整備

組織間の産学官連携の推進

大学発ベンチャーの起業から成長までの一貫した支援とベンチャー・エコシステムの構築

事業化を見据えた戦略的・重点的な知財創出と活用

戦略 3-2

学際的・分野融合的研究活動を推進する 体制の整備

本学の研究成果を社会実装やイノベーション創出につなげるためには、研究の卓越性と多様性を更に進め学際的・分野融合的研究を一層推進すること、研究成果を社会実装・イノベーション創出につなげる取組みを強化することが必要となる。既存の研究機能や支援機能の再編・統合、外部機関との連携、研究インテグリティ確保の観点等も含め、全学的な方針の下で学際的・分野融合的な研究を推進できる体制を構築する。

中長期計画

多様な分野における卓越した研究を基盤とした学際的・分野融合的研究の推進

研究組織・支援体制の不断の改革による研究機能と研究リスク対応の強化

戦略 3-3

研究財源の確保

研究成果の社会実装やイノベーション創出のための研究資金の財源確保については、競争的研究費などの外部資金の獲得を強化し、学納金への依存度を高めない方法による実現を図る。また、外部資金に伴う間接経費等の研究支援資金の活用を見直し、併せて既存の学内研究費制度の再構築等により生み出された資金を次の研究シーズに投資するという研究資金の循環システムを構築する。

中長期計画

学内研究費制度の改革

競争的研究費、共同研究、受託研究の獲得増

産学官連携、社会実装、イノベーション創出に資する財源の確保

戦略 3-4

研究活動の推進を支える学術情報基盤の整備

大学における教育研究活動を支える大学図書館および情報ネットワーク環境については、長い歴史の中で蓄積された貴重な学術情報の維持管理と利用者の更なる利便性向上はもとより、学術情報の電子化の進展と分散化（クラウド化）を踏まえた新しい学術情報基盤のあり方を検討し、整備を進める。その際に、関係する組織が協議の上で現有資源の有効利用と効率的運用に努める。

中長期計画

オープンサイエンスに対応した学術情報基盤および研究者支援制度の確立

学術文献資産の継承と将来の図書館機能のあり方の検討

戦略 3-5 博士後期課程を起点とした若手研究者育成

社会のイノベーション創出につながるような研究成果を生み出す優秀な博士人材の養成が求められる。「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」に採択された本学プログラムD-CPRAの趣旨を継続し、博士後期課程の教育プログラムの充実を図るとともに、博士後期課程の学生が、世界のさまざまな分野でのキャリアを展望でき、自立した研究者として研究に取り組むことのできる環境の整備と支援を行う。

中長期計画

カリキュラム・教育プログラムの充実とキャリア・トランスファラブルスキルの涵養

博士後期課程学生の研究支援の充実

若手研究者支援制度・体制の確立

Vision 4

誰もが個性と能力を発揮できる場の創出



本学で教育研究活動をともにする学生や教職員の「心の豊かさ」を育む多様性あふれるキャンパスを創出する。
具体的には、ダイバーシティ推進および安心・安全キャンパスの構築に関するもののほか、学生の正課外活動に対する支援や学生相談、幅広いキャリア支援に繋がる取組みを通じて、行動する知性を豊かに育むための場を提供する。

10年後に目指すべき姿

2026



2035

- ◆ 学生・附属校生徒、教職員にダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）の考え方が浸透し、多様な背景を持つ者が等しく学び働くことのできる環境が実現している
- ◆ キャンパスの施設設備にDE&Iの観点が反映されている
- ◆ キャンパス内の安全性が十分に確保されている（防犯対策、大規模災害への備え、情報セキュリティ等）
- ◆ 組織統合やDXを通じて、必要な支援機能がシームレスに提供できる体制が確立している
- ◆ 学生の自主的・自律的な正課外活動（学術・文化・芸術・スポーツ・ボランティア活動等）を支える新たな形が構築されている
- ◆ 多様な進路選択を可能とする支援が充実している（キャリア支援、資格取得）

中長期戦略

戦略 4-1 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）キャンパスの実現

戦略 4-2 安心・安全キャンパスの構築

戦略 4-3 利用者視点の学生支援機能の統合・集約化

戦略 4-4 学生の正課外活動の発展に資する支援体制の検討

戦略 4-5 学生のキャリア支援の充実

戦略 4-1

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) キャンパスの実現

中央大学ダイバーシティ宣言（2017年策定）に掲げる理念を具体化し、DE&Iの考え方の更なる浸透を図るとともに、キャンパスのバリアフリーやユニバーサルデザイン、多言語化等、ダイバーシティの観点に配慮した施設・環境整備を実施する。また、すべての学生・附属校生徒、教職員が個人の能力を最大限に発揮し、相互に人格と個性を尊重しながら安心して過ごせるための支援として、個人に寄り添う支援体制の充実やハラスメントの防止啓発を含めた環境改善に努める。

中長期計画

DE&Iの理念を浸透させる施策の実施

DE&Iの視点を活かした施設・環境整備の実施

DE&Iの理念に基づく学修支援機能の強化

DE&Iの理念に基づく教職員の雇用・就労のあり方の検討と施策の実施

戦略 4-2

安心・安全キャンパスの構築

学生・附属校生徒、教職員の命を守るため、防犯対策や大規模災害等を含めた有事の際の危機管理対策を徹底するほか、本学が進めるDXへの取組みに合わせて情報のセキュリティ強化をおこない、誰もが安心・安全に過ごすことのできるキャンパスを確保する。

中長期計画

防災・減災・防犯への取組みの理解浸透

危機対策本部との有機的連携に基づく、キャンパス単位での危機管理体制の構築

法人・各設置校を横断的に管理する情報セキュリティ体制の構築

自治体等との連携による広域防災体制の構築

BCPの策定

防災・減災・防犯に配慮したキャンパスデザイン

戦略 4-3 利用者視点の学生支援機能の統合・集約化

複数キャンパスを擁する本学において、多様化する学生のニーズに対応するため、利用者視点の学生支援機能を再構築する。現在、各キャンパスに点在する学生支援組織が持つ機能の集約化、あるいは連携を強化し、窓口のワンストップ化や各種手続や相談のオンライン化を図りつつ、利用者の利便性向上と重複業務の解消に資する機能統合・集約化を進める。

中長期計画

学生の特性・行動の変化に対応した学生支援機能の再構築

いずれのキャンパスにあっても円滑に学生支援を利用できる体制の整備

戦略 4-4 学生の正課外活動の発展に資する支援体制の検討

学生の自主的・自律的な正課外活動（学術・文化・芸術・スポーツ・ボランティア活動等）を尊重し、大学がその活動に適切に関与することで安心・安全な活動を促進し、より豊かな学生生活を実現するとともに、躍動感に満ちた多様性あふれるキャンパスを創出する。

その際は、複数キャンパスにおける円滑な連携を前提として、変化する学生のニーズに対応し、新しい時代に即した支援体制を検討する。とりわけ、自主的運営を原則とする学友会の部会活動については、学生の自主的・自律的な活動の意義を尊重しつつ、組織のあり方、活動財源（寄付金を含む）のあり方、大学としての適切な関与について、学生との対話の中でよりよいあり方を検討する。

中長期計画

課外活動の充実に向けた支援制度の再構築

キャンパス特性を考慮した支援モデルの構築と支援体制の整備

ボランティア活動の位置づけの検討および支援強化

戦略 4-5

学生のキャリア支援の充実

学生が自らキャリアデザインを描き、卒業後の活躍と自己実現を叶える支援として、多様化する進路に対応したキャリア形成支援を強化する。また、国家資格試験合格を目指して入学した学生に応えるため、その支援体制を再構築する。

社会で活躍する卒業生との連携を深め、卒業生が学生を支え、大学と関わり合い、キャリア形成を支援するといった循環する仕組みを構築する。

中長期計画

キャリア形成支援および就職支援の充実

企業や卒業生との連携プログラム等の展開

留学生に特化したキャリア形成支援の強化

法曹、公認会計士、国家公務員総合職試験対策支援の改革

Vision 5

学内リソースの結集によるシナジーの最大化



本学のブランド価値の1つである総合大学としての価値創造のために、組織間連携の強化により、本学のリソースを結集させてその力を最大限に発揮する。具体的には、DX推進によって業務と組織を最適化し、教育研究現場の自律的な予算執行と全学的な意思決定の迅速化や各種リソースの共有・有効活用を両立させる。また、附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針を明確化し、総合学園体制を構築する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針が明確化され、総合学園体制が構築されている
- ◆ 業務効率化の観点から組織が再編・統合され、重複業務や重複投資がない
- ◆ 全学的、組織横断的な意思決定が迅速化されている
- ◆ キャンパス間の連携体制が最適化されている
- ◆ 事業計画と連動した予算の優先配分が実現している
- ◆ 各予算単位の自律的な予算執行により、業務がスクラップ&ビルドされている
- ◆ 教員と職員とが目標を共有し、学校法人全体の発展に向けて協働できている

中長期戦略

戦略 5-1 附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針の明確化

戦略 5-2 DX推進に基づく業務最適化と組織再編

戦略 5-3 収支構造の見直し

戦略 5-4 教職員活動のシナジーの創出

戦略 5-1

附属中学校・高等学校の位置づけや 運営方針の明確化

Chuo Vision 2025で掲げられた総合学園という概念をより明確にするとともに、大学と附属学校の関係について、法人全体としての統合性と各附属学校の独自性のあるべき調和点を探る。また、附属学校のそれぞれの課題に応じた施設対応などを検討する。

中長期計画

法人と各附属学校との相互連携による危機管理体制の整備

各附属学校による教育目標や経営方針の再確認を踏まえた将来計画の策定

各附属学校による校内業務の最適化とDXの推進

各附属学校の将来計画を踏まえた法人としての附属政策の策定

戦略 5-2

DX推進に基づく業務最適化と組織再編

各組織における自助努力的な業務の効率化にとどまらず、DX推進に基づき、全学的見地（事業会社を含む）から業務最適化と組織・委員会等の再編を実施する。これにより、重複業務やキャンパス間の物理的距離等による無駄を徹底的に省くとともに、全学的・組織横断的な意思決定を迅速化させる。

中長期計画

利用者視点のワンストップサービスの構築による業務最適化

業務執行の効率化に向けた組織再編

各種委員会の抜本的な見直しによる統廃合の実施

戦略 5-3

収支構造の見直し

各予算単位による自立的・自律的な予算執行制度を確立し、各予算単位において恒常的に業務のスクラップ&ビルドが可能な体制を構築する。予算単位の再編等を通じて法人全体の経費を適正化し、中長期事業計画と連動した予算を確保していく。教員人件費枠や独立会計制度のあり方等に関する改善についても、引き続き取り組む。

中長期計画

予算制度の見直し

健全財政維持のための人件費構造の見直し

会計単位の見直し

戦略 5-4

教職員活動のシナジーの創出

本学が掲げる目標を教員と職員が共有し、全学的・組織横断的な意思決定を迅速に行い、総合大学として新たな価値を力強く創出していく。本学全体の活性化、新たなブランディングに資するよう、教育、研究、社会貢献、管理・運営業務等、多様な教員の活動を適正に把握することを可能にする、本学固有の教員活動評価（アセスメント）等の実施について検討する。また、SD活動を通じた教職員の能力開発により、全学的なマネジメントにあたる行政職を担う教職員の育成や各種会議体への職員の参画を進め、教職協働の実質化をはかる。

中長期計画

全学的な意思決定の実質化と内部統制システムの運用・検証

教員活動評価（アセスメント）の導入検討

専任職員の役割の実質化

組織間連携によるシナジーの最大化